

よと 余土地区

人口: 23,757人(高齢化率26.0%)

世帯数: 10,913世帯

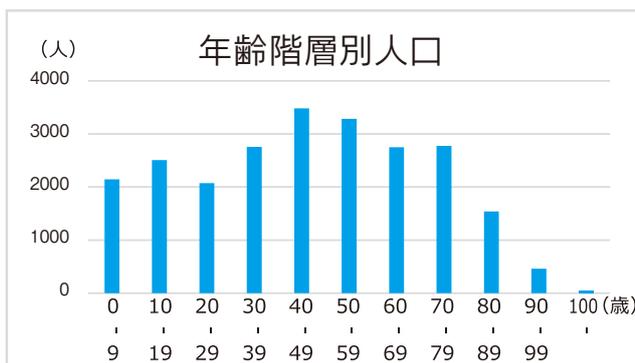


【地区の特色】

余土地区は、余土・保免・市坪の3つの町からなり、石手川と重信川が合流する地域に位置している。昔から農業の大変盛んな農村地であったが、近年は国道56号線を中心に住宅や店舗が建ち、他の地域からの転居者も増え、人口は松山市の上位にランクされるようになった。また、松山中央公園には「坊っちゃんスタジアム」や「県武道館」など大型公共施設が集中しており、今後の町の活性化がますます期待されている。



松山中央公園と眼下に流れる石手川



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が小さい(地理的) ・交通の利便性が高い(電車、バス、空港、高速道路近く) ・地区社協拠点がある ・高齢者、障がい者の施設が充実 ・移動スーパーが来る ・まちづくり協議会が充実(人づくり) ・街灯が多く夜明るい ・警察と連携した見守り活動 ・公民館のスポーツ大会の充実(ソフトボール、グラウンドゴルフ、ペタンクなど) ・中央公園ができてスポーツ関係が充実し、町が明るくなってきた ・中央公園地域の散歩、ジョギングの利用増大 ・地区の見守りがあり、繋がりが強い ・地域活動に中心になる人が多い ・新しい宅地に若い人が頑張っている ・小中学校に防災ベンチ ・県武道館の避難所指定
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション、コーポの増加で人間関係が希薄になっている ・道路建設により地域が分断されている(余戸南) ・空き家が多い(管理の問題) ・役員の担い手が少ない ・各団体は利用者が限定される ・水害時の心配(避難場所が少ないうえに遠い、道が狭い) ・屋外で運動する場所が少ない ・駅やバス停が遠い ・公民館にも防災ベンチが欲しい ・歩道が整備されていないので車いすが押しにくい ・電動車いすも通りづらく買い物が不便(高齢者が不便) ・買い物に不便な地域がある ・地区内の愛護班の繋がりが薄くなった
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により活動が難しい ・子ども会活動の停滞 ・住宅化が進み近所付き合いが希薄になっている ・高齢者世帯が増加し空き家も増加 ・近所のコミュニケーションがとりにくい ・歩道の整備・郵便ポストが少ない ・分譲住宅は同年代が多く一気に高齢化する恐れがある ・災害時の高齢者の避難(防災士との連携) ・移動が不便なのでちよいソコを検討中 ・ループバスがない ・自転車のマナーが悪い

余土地区社会福祉協議会

助け合い 笑顔が輪になる 余土のまち

<拠点> 松山市余戸東4-4-34(余土公民館内)

構成団体	地区民協・議員・公民館・中学校・小学校・消防分団・交通安全協会・交番・農協・町内会連合会 高齢クラブ・保育園・母子福祉会・地域包括支援センター・自主防災連合会
主な取り組み	活動内容
災害マップの作成	平成23年度から独居・寝たきり・障がい者の支援を目的に地区民協と連携して作成し各町単位で更新しながら活用しています。
福祉学習の推進	公民館と共催し、地域にある公民館・分館3か所で年2回ずつテーマ性に富んだ福祉学習事業を行っています。
福祉用具の貸し出し	短期の旅行や病院受診などの際に介助が必要な方を対象に、車いす2台の貸し出しを行っています。

拠点を活かした取り組み

余土公民館、まちづくり協議会、地区社協が入る拠点の機能を活かして、様々な連携・協働事業を行っています。
松山市が定めた「まつやま子どもの日」にちなんだ子ども夏フェスやクリスマス会、余土地区総合文化祭など住民みんなが楽しめる参加型イベントを開催しています。



<地区社協が目指すもの>

余土地区社協では平成29年にかねてから念願であった活動拠点を余土公民館の中に設けることができました。また隣接には子育て関連の施設も入り分野を超えた連携が期待されています。

今後、地域内の問題がますます複雑になっていくこととは思いますが、関係する様々な団体が互いに連携し、それぞれの特徴を活かした地域福祉活動を展開することが重要であると考えます。拠点を活かした取り組みを重ねながら、少しでも地域の活性化に貢献したいと考えております。

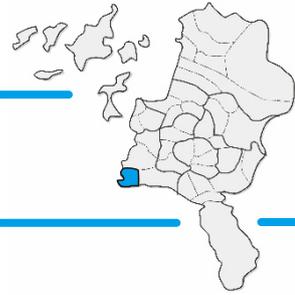
地区の状況	■地区民協	34名 2名	■町内会・自治会・区長会等	54団体
	民生委員		■高齢クラブ	9クラブ
	主任児童委員		■子ども会	14団体
	■まち協の設立	平成21年度	■自主防災組織	8組織

地区の特徴は、地区社協構成団体が多いこと、また他団体との連携・協働を可能としている活動拠点にあるといえます。それは、地区社協の活動拠点が公民館内に設けられたことで、地域内の関係団体との連携強化により活動の幅が広がっていることです。特に子育て世代向けの参加型イベントを通して、子ども達の地域への愛着形成が図られているといえます。また、災害対策として、単位地区ごとに災害マップを作成し、助け合いができる仕組みを構築しています。これらの取り組みから、新たな地域福祉活動が展開されることが期待できる地域だといえるでしょう。



はぶ 垣生地区

人口: 12,060人(高齢化率24.0%)
世帯数: 5,219世帯



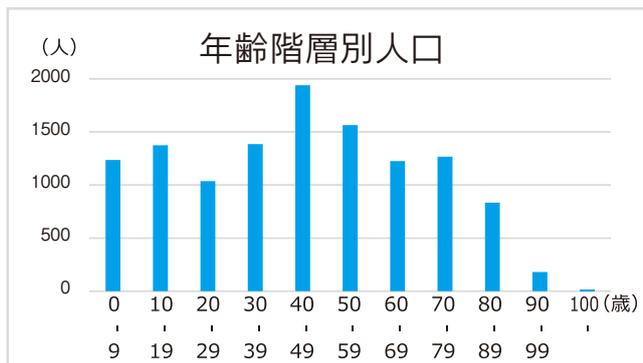
【地区の特色】

松山市の西南端に位置する垣生地区は、南に重信川河口、美しい夕日の落ちる風光明媚な所、年間を通して3,000羽の渡り鳥が羽根を休める。半農半漁のこの町も時代の流れと共に企業や会社人口も増しているが、新旧住民の意志疎通は図られている。

また、地区住民の幸せを願って西国33霊場のお地藏様が町の角々に建てられているのもこの地域ならではの特色であり、伊予絣の発案者で有名な鍵谷力ナの生誕の地でもある。



重信川河口から見る夕日



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関連の活動が活発(防災士、自主防災会、女性防火クラブなど) ・俳句の里としての歴史が残っている ・サロン活動が活発 ・子どもの見守り ・夏祭り盆踊り大会 ・医療機関が多い ・生活関連施設に恵まれ生活しやすい ・公園、グラウンドが多い ・保育園、幼稚園、小中学校が地域に溶け込んでいる ・町内会行事の参加者が多い ・ループバス便が15分~30分毎にある ・自然が残っている ・公共機関が地区の中央にある ・歴史が豊か ・人口が増加している ・児童が増えている ・道路が広い(東垣生) ・空港が見える公園
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅が多いので連絡が取りにくくなった ・若者が町内会に加入しない ・団体数が多く連携が難しい ・人口の増加により、新旧住民との関係がうまくいかない ・地域色が強すぎる ・交通の便が悪い(高齢者は特に不便) ・西垣生は生活道路が狭く空き家が多い ・街灯や外灯が少なく暗い場所が多い ・西垣生の道が狭く収集車が入らない ・市営墓地の駐車場が無く路駐が多い ・ごみステーションの問題(ルールを守らない人がいる) ・中心部の道路が狭い ・地域住民が集まれる複合型コミュニティ施設がない ・公民館が古くなっている(駐車場がない、エレベーターがない)
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者は個人からの申請がないので把握できない ・災害時の高齢者のための避難施設の整備が必要 ・老老介護の方が増えている ・道が狭く救急車が入りづらい(西垣生町内) ・ループバスが南北にもあればよい ・高齢者と若者で地域への関わり方の意識に差がある ・独居の認知症高齢者を地域で支える方法 ・空港整備で町のつながりが変化してきた ・住所標記ができていない ・地域の繋がりが希薄 ・地区内の幼稚園と保育園に入れにくい

垣生地区社会福祉協議会

構成団体	共同募金会・地区民協・公民館・分館・PTA・更生保護女性会・町内会連盟 女性防火クラブ・高齢クラブ連合会・協議会・防犯協会・レディースネットワーク
------	--

主な取り組み	活動内容
特別支援学級児童との交流行事	小学校の特別支援学級に通う児童との交流行事を開催し、りんご狩りなどの学外活動を中心に社会体験の提供に努めています。
高齢者・児童の見守り	地区民協と協力して、独居高齢者宅を毎月訪問し安否確認等を行っています。また、小・中学校と連携し夏休み・冬休みのパトロールを行っています。
ひとり親世帯の支援	毎月第3土曜日に親子カフェを開催し、食事の提供と交流を実施しています。

かぎ や さい 鍵谷祭

伊予かすりを考案した鍵谷カナの命日である5月28日にあわせ垣生地区で行われている「鍵谷祭」において、公民館と連携してもちつきや販売、サロン作品の展示などを行っています。伝統文化を次世代に伝えるため、地区社協として支援しています。



<地区社協が目指すもの>

垣生地区は、伊予絃の考案者鍵谷カナや俳人村上霽月・石田波郷を生んだ伝統と文化溢れる地です。現在は、若い世代のUターンや農地の宅地化に伴い新しく移り住む人も多くいます。一方で高齢者も増加しており、世代を超えた交流或いは新旧住民が一体となった活動が必要です。地域住民交流の場として、まちづくり協議会が検討している複合型施設の整備が必要であり、地区社協として協力しています。今後も地域の関係団体と連携し、地域の実情に応じた福祉活動を展開して、「みんなでつくろう!笑顔でつなぐ垣生のまち」の実現を目指します。

地区の状況	■地区民協	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	53団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員		■子ども会	15団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	33組織

Uターンで戻ってくる若い世代が多く、また農地の住宅地化に伴い人口が増加傾向にあります。そのため、地域行事への参加者も多く、地域活動に興味・関心の高い地区と言えるでしょう。また、地区社協の構成団体も多様で、関係機関と連携・協働した活動が展開されています。例えば高齢者・児童の見守り活動、ひとり親世帯への支援としての親子カフェ、食事の提供と交流などがあります。さらに、鍵谷祭を通して、地域住民に伝統文化が継承されるなど、これらの取り組みから新しい形でのつながりが期待できる地域だといえるでしょう。



しょう せき

生石地区

人口: 18,899人(高齢化率26.7%)

世帯数: 8,788世帯



【地区の特色】

生石地区は、松山市の西部、瀬戸内海に面した位置にあり、自然と緑豊かな垣生山を中心に、伊予節で有名な吉田挿桃(さしもも)を初め、生石八幡神社・金刀比羅神社等、数多くの史跡が残っている。かつては、大根・ラッキョウ・さつまいも等の野菜栽培が主な産業の田舎であった。戦後は、(株)帝人を始め次々と企業が進出し、旧軍滑走路は松山空港となり、周辺の整備事業も進み、国際化へ向って愛媛の空の玄関として大きく変わってきている。



愛媛の空の玄関、松山空港



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会と連携した活動 ・防災訓練に熱心 ・陸海空の交通が至便。空港があり県外へのアクセスが良好 ・買い物などスーパーが多く便利 ・避難所が多い ・企業OBが協力的 ・公園で子どもたちがよく遊んでいる ・住民によって垣生山の整備活動が行われている ・公民館活動が盛んでコミュニケーションが取れている ・保育園と地域住民の交流がある ・子どもたちがよく挨拶する児童数市内No.1 ・子ども見守り隊の見守り員が多い ・自然に恵まれている ・山側を歩くと空気がキレイ ・健康意識が高い
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポなど自治会にも入らない人達とのコミュニケーションが取りにくい ・若い人の地域行事参加が少ない ・土石流の心配がある ・信号の時間が短いところがある ・脇道が狭く車の量が多い ・交通量が多い ・バスの遅延(朝・夕) ・時間によって交通混雑、渋滞がある ・地域によるゴミ出しの分別が守られていない ・公園の利用マナーが悪いところもある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法により、個人情報が出ないので把握できない事が多い ・独居世帯が増加(日常生活への支援が必要) ・高齢者が話し相手をほしがっている ・賃貸マンションの住民との交流 ・スーパーが多くなり、小売店が少なくなる(高齢者の買い物不便) ・役員の担い手不足・行事を行うにも他人事 ・住民同士の関わりが希薄になる

生石地区社会福祉協議会

つないだ手 温もり伝わる 生石の輪

構成団体	地区民協・町内会長・区長・自治会長	
主な取り組み	活動内容	
地域住民の生活支援 (地域福祉サービス事業)	ゴミ出しや買い物支援等、高齢者の生活を地域住民の手で支えようと、協力会員、民生委員・児童委員、みまもり員が簡易な生活援助を行っています。	
生石小学校における 福祉学習	福祉学習の一環として、障がいのある人や高齢者の生活への理解促進を目的に車いすや点字、高齢者擬似体験の活動を支援しています。	
高齢者福祉講座	まちづくり協議会と連携し、主に高齢者を対象とした福祉講座を開催しています。高齢者が身近に感じる事をテーマに取り上げています。	

お一人住いの皆様と共に

独居高齢者を対象に、交流と慰労を目的とした催しを行っています。保育園児による劇や中学生によるコーラスなど、様々な関係機関と連携して絆と思いやりの種まきを行っています。

平成元年から続く活動で現在までに30回開催しております。



<地区社協が目指すもの>

地域社会の変化と多様化、例えば新旧住民の関係、地域への愛着度、少子高齢化、防災など課題山積のなか、これまでの行事・活動を漫然と続けていては活性化は望めません。まずは地区まちづくり協議会、その構成組織・団体との連携強化と交流に努めます。すでに高齢者健康福祉講座、認知症サポーター養成講座、防災訓練、災害時要援護者対策で実績を積み、意見交換を始めている分野もあるため、この流れを地道に継続し、拡大・普遍化する先に「助け合う社会」「安全安心の暮らし」「地域文化の継承」などの展望が開けてくると考えています。

地区の状況	■地区民協	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	民生委員		■高齢クラブ	7クラブ
	主任児童委員		■子ども会	7団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	16組織

児童が市内でも多く在住し、交通や生活の利便性が高い地区です。そのため、子どもに対する活動が中心となっています。地区社協が目指す「絆と思いやりの種まき」を具現化する試みとして独居高齢者を対象に子どもを含めた交流会、地域住民による地域福祉サービス事業の展開、子ども向け福祉学習や福祉講座を開催しています。これらの活動は、子どもの地域愛着形成につながり福祉教育の充実に向けた実践といえるでしょう。



みぶ 味生地区

人口: 27,055人(高齢化率26.1%)

世帯数: 12,676世帯

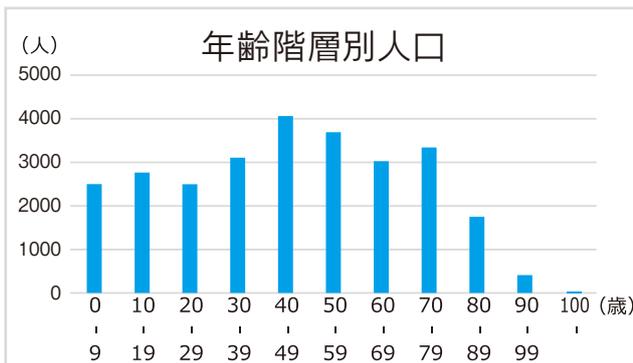


【地区の特色】

味生地区は、松山市の南西部に位置し、南斎院・空港通・北斎院・別府・清住・大可賀・山西の各町から成る静かな住宅地域である。松山市の空の玄関口である「松山空港」に隣接するとともに、貿易促進地区(FAZ愛媛)の指定に伴い、西部の海岸地帯は近代化学工業が立地する臨海工業地帯である。また、古くから神社・寺院も多く、味生地区の史跡(古照遺跡)を展示する考古館や小・中・高校を地区内に有する文化と教育の地域である。



南斎院町の長屋門



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会がある ・自主防災が各地区で整備されている ・人が穏やか ・面倒見が良い人が多い ・生活がしやすい ・病院が多い ・バスの便が良い(南斎院) ・電車(山西)が通っている ・文化財が多い ・子ども見守り隊の活動が活発 ・自活力が強い ・社会福祉法人(施設等)との交流が盛ん ・若い人たちの居住が増えた ・教育関連施設が充実 ・町内会長がしっかりしている ・賃貸住宅多数、分譲地多数→毎月人口増加 ・子ども会が充実(味生小・味生第二小1,300人) ・コミュニティースクールができた(味生小・味生第二小・津田中) ・レクバレーチーム数20以上 ・ソフトボール、卓球、グラウンドゴルフも盛ん ・地域活動への参加多数 ・医療福祉が充実 ・公民館に賞状とトロフィー多数 ・松山市民体育祭で上位 ・喫茶店が通い場になっている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動のPR不足 ・福祉学習へ新たな参加者を増やすための呼びかけ方法 ・坂道が危険(軽井沢団地、津田団地) ・ふれあいセンター前の道がせまい ・真情橋(まごころばし)の道路に歩道が必要 ・郵便局ポストが少ない ・新旧住民問題 ・山西地区は大雨台風時に浸水の恐れあり ・川が危ないところがある ・東西の道路が狭い ・一部マナーが悪い(ゴミ、犬のフン)人がいる ・ゴミ出し ・近所付き合いが希薄化 ・空き家問題がある ・共同募金を集めるのが難しい ・児童クラブがパンク ・子ども会の役員会が担い手不足 ・農家が減っている(保水力が心配)
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多くなり地域の役員の担い手がなくなる(仕掛け人が不足) ・高齢者の増加による支援(ゴミ出しなどの生活関連) ・障がい者の把握がよくできていない ・高齢者に対する理解不足 ・独居高齢者の居場所→安心して本音を話せる場所が必要 ・空き家問題 ・ゴミ出しのマナーが徹底されていない ・近隣付き合いの希薄化 ・高齢者と若い世代とのコミュニケーションが少ない ・公共の行事(市民大清掃など)の参加者が少ない(町内による) ・児童クラブ問題(第二小が溢れている) ・子ども食堂の安定的な運営

味生地区社会福祉協議会

まごころ
真情で 仲間とはぐくむ 味生のまち つなぐ

構成団体	地区民協・広報委員・町内会長連絡協議会・公民館・まちづくり協議会 自主防災連合会・支所・PTA・食生活推進協議会・高齢クラブ連合会・小学校・中学校 保健推進協力会・保育園・地域包括支援センター・少年警察ボランティア協会
------	---

主な取り組み	活動内容
全国方言ラジオ体操	「食べて笑って体操で味生を元気に」を合言葉に集い場づくりを目指し、味生地区公園を巡っています。
ふれあい教室	手芸教室や、地域包括支援センターを交えた健康教室を定期的に開催しています。
小学生から高齢者へのメッセージカード	一人暮らしの高齢者を対象に、小学生がつくったメッセージカードを持って民生委員が訪問しています。

味生福祉のつどい

地域のサロンや学校、障がい者施設、地域包括支援センターなど様々な関係機関や団体が協働し、福祉啓発を目的としたつどいを開催しています。サロンによる作品発表会や健康相談などを実施しており毎回、大勢の方が来場されます。



<地区社協が目指すもの>

「あなたの笑顔はまちの笑顔」を合言葉に、地域の皆さんが明るく楽しく元気よく生活できるよう支援活動の輪を広げ地域福祉の向上をめざします。

1、まちづくり協議会など関係組織との連携を強化し、多くの課題をより効果的に解決するよう取り組みます。 2、地域のニーズを的確に把握し事業内容や予算に反映させます。 3、高齢者・子育て世代・障がい者の方々の日常生活での困りごとのお手伝いを支援する地域福祉サービス事業の充実・強化に取り組みます。

地区の状況	■地区民協	38名 2名	■町内会・自治会・区長会等	32団体
	民生委員		■高齢クラブ	4クラブ
	主任児童委員		■子ども会	31団体
	■まち協の設立	平成30年度	■自主防災組織	33組織

地区社協構成団体や子ども会の数が多い地区です。そのため、地区社協や関係団体の取り組みも子どもに焦点をあてたもの、もしくは子どもと協働しながら活動するものが多くを占め、新旧の子育て世代の住民が地域に馴染みやすい環境であるといえます。また具体的取り組みの一つ「味生福祉のつどい」は、関係機関の連携強化、生活課題の解決に向けた協働実践が形成される場となっており、今後は地域福祉サービス事業の充実や強化につながる取り組みが期待できるでしょう。

